

上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)時における皮膚障害の現状～褥瘡予防ケアの検討～

独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院 内視鏡センター

看護師：○平井 裕貴 中嶋 宏 馬場 郁子
内視鏡技師：岩坪 ひろみ 百合野 礼 畑中 澄子
医師：橋本 さつき 高橋 孝輔 東郷 政明
橋口 慶一 村岡 徹 大場 一生

【はじめに】

A 病院では、上部内視鏡的粘膜下層剥離術（以下上部 ESD とする）を受ける患者の褥瘡発生予防のために、体圧分散マットや補助枕を使用し褥瘡予防対策を実践している。現在、病棟帰室後の発赤発症などの報告は無いが、治療直後の皮膚観察を全症例には実施しておらず、長時間圧迫部位への皮膚観察が不十分であった。特に上部 ESD は同一体位での治療時間も長く、鎮静し施術するため褥瘡発生のリスクが高くなる。

治療後の皮膚状態を観察し、現在の褥瘡予防対策の評価を行い、上部 ESD の褥瘡予防対策の有効性を検証する。

【方法】

対象：上部 ESD を受けた患者 31 名

調査期間：平成 26 年 8 月 4 日～平成 27 年 1 月 8 日

調査方法：①カルテからの褥瘡発生要因・危険因子の情報収集

②治療直後の皮膚観察、治療直後に発赤があった場合は、病棟帰室後 30 分に皮膚観察

【倫理的配慮】

研究の目的・方法を口頭で説明し、プライバシーに配慮すること、研究以外の目的で使用しないことを口頭で説明し同意を得た。

【結果】

- 1、対象は男性 22 名、女性 9 名で平均年齢は 73.4 歳であった。
- 2、治療直後の発赤有患者は 17 名であり、発赤の有無で A 群、B 群に分け特性をまとめた。(表 1)
- 3、発赤部位別にみると左大転子が 11 名、左腸骨が 3 名、左膝外側・左大腿外側が 2 名、左肩・左上肢・左殿部が 1 名であった。

表 1

n = 31

	総数	平均年齢	平均 BMI	平均 Hb 値	平均 TP 値	平均 Alb 値	平均 治療時間
発赤無 【A 群】	17 名	75.4 歳	22.5	11.3	5.4	4.04	152 分
発赤有 【B 群】	14 名	76.5 歳	19.9	9.6	6.1	3.9	175 分

【考察】

発赤有の患者は発赤無の患者に比べ、BMI 値・Hb 値がやや低値であり治療時間が 20 分程長く、末梢循環動態不良や長時間の同一部位圧迫で褥瘡発生リスクが高くなったと推測する。

発赤部位は、いずれも左側の褥瘡好発部位に多発している。しかし、帰室 30 分後には全員の発赤が消失しており褥瘡発生はなかった。このことより、上部 ESD 術中の褥瘡予防ケアは有効であったと考える。

【結語】

現在行っている体圧分散マットと補助枕の使用は上部 ESD 術中の褥瘡予防ケアとして有効である。今後治療後発赤を減らす為、褥瘡発生リスクが高い患者に対し術中の圧抜き等個々に合わせた体圧分散ケアを行うことを検討する余地がある。

【連絡先】

〒854-8501 長崎県諫早市永昌東町 24-1 0957-22-1380